内膳供御歯固、大根、苽串刺、押鮎、焼鳥等付進物所、進物所例云、正月元日早朝供奉屠蘇御膳事、猪宍二盤、一鮮焼押鮎一盤、切盛置頭二串煮鹽鮎一盤、同切置頭二串但御器者度於内膳、瓷盤四口、天皇御東廂、著御生氣御服、舊例采女已上著生氣衣、陪膳女藏人等候御厨子所、供御臺二基、女藏人取傳授陪膳、自内供采女二人藥司等候右青璅門、内膳奉膳付采女、采女取之授女藏人、女藏人傳取自御帳臺上供之、壇間御簾不上宮内輔侍醫等、於小板敷前一々掌之、有膝突次供御酒、

〔江家次第一正月〕供御藥正月元日三〇中略　内膳自右青璅門供御歯固具、盛青瓷、件青瓷自所渡於内膳、尾張百五〇物内〇毎物有蓋擎子、内膳所設　采女傳取之、自第三間御几帳上付女藏人、女藏人傳陪膳、　大根一坏、苽串刺二坏、或説三坏、然而總七坏由有所見、　押鮎一坏、切盛置頭煮鹽鮎一坏、同切置頭二串猪宍一坏、以雑代之鹿宍一坏、以田鳥代之　以上七坏之内、精進物供第一御臺、魚類供二御臺、或説無鹿宍有腹赤、

〔錦所談一〕百五物　江次第御歯固具ヲ盛青瓷ノ注ニ、尾張百五物トアルヲ、先輩百五ノ二字ヲ貢ノ字ノ誤トシタリ、按ズルニ、長保二年四月九日權記云、〇中略藤原頼經去年爲催百五物之使下越前國、〇中略コレヲ以テ見レバ、強チ貢ノ誤ニアラズ、百五トハ、百五入ナド云數ノ名ヨリ、貢物ノ稱トナリタルナルベシ、

〔建武年中行事〕此時〇御藥ヲ供ズル時ヲ云フまづ御厨子所の御はがためを供ず、采女二人御座の次のまの几帳のうへより是を供ず、力自につたふ采女命婦藏人、おの〳〵二人、上より次第にかはりて役送す、八の盤なれば二へんにあたるなり、本儀は四人なり、二人も時によるべし、典侍次第に御盤にすう、御はがため、一の御ばんにすうるなり、大方精進の物、一の御盤たるよし江次第に見えたり、かはらけばかりとりて、かいけいしをば本のごとく盤に居てかへし給へば、度毎に是にすうるなり、

〔後水尾院當時年中行事上正月〕歯固は、陰陽頭勘文によりて日時を定めらるゝ、もし朔日などならば強供御已前に參るなり、參る所もむかはせ給ふ方も、はいぜん等みな強供御に同じ、先打敷を